会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進　①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回事業推進委員会 |
| 開催日時 | 令和5年12月1日（金）14:00～16:00 |
| 場所 | リファレンス西新宿大京ビル貸会議室 |
| 出席者 | 委　　員：五十部　昌克、沖　直彦、谷　昌一、山根　大助、鈴木　弘明、松本　晴輝、林　宏治（OL）、　　　　　稲永　由紀（OL）、菊田　薫（OL）、冨田　伸一郎（OL）、氏部　正（OL）、松田　義弘（OL）、岡村　慎一（OL）　　　　　　　　　　　　　計13名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計14名 |
| 議題等 | 〇アンケート調査中間報告（五十部）・現在は、まだ集計が終了していない。・1100程度の学校で現在380校程の学校に回答していただいている。・学生数をキーにして分析を行う。・学校規模が小さい学校ほど教職員全体で自己点検・評価を実施する率が高くなる。・実施状況については、学校関係者評価は、大きな学校になればなるほど回数が増える。概ね2、3回程度。・中期計画については、230校の回答はもらっているが、達成度評価に関しては、小さな規模の学校は難しい。・数値目標についても、大きな学校になればなるほど細かく数値化されている。・教職員への公開や説明も大規模の学校ほど実施されている。・学校地域別をキーにした集計をとりまとめていきたい。・加えて、指定養成施設であるか否かを区分してみる予定。ーーーーーーーーー質疑応答・専門学校の規模別は良いが、地域別というのは何か必要か？（林）・内部質保証人材を求める声が地域によってあるか否かの確認をしたい。また、第3者評価の実施状況なども地域別にまとめていく予定です。（五十部）・評価とは学校関係者のことなのか（岡村）・学校評価と学校関係者評価を区分しているつもりだった。基本的には学校関係者評価委員会という立場と考えている。（五十部）・自己点検評価を誰がやっているかを検討しているが、そもそも全ての教職員が携わることとなっている。公開・説明がどのように進んでいるのかを明確にする必要がある。自己点検評価を全員でやっていると回答している学校はクロスのキーにしても良い気がします。（菊田）・了解した。（五十部）・第3者評価を実施している結果は8％前後だったと思う。今回は20％を超える結果となる。第3者評価とは何を指すのかが不透明に感じる。（冨田）〇ヒアリング調査報告（五十部）・そもそもアンケート調査の結果からヒアリング対象を選定することとしていた。・ヒアリング調査管理シートは12校までは設計ができている。・KBC学園、穴吹学園までは日程が確定している。・修成建設及び創造社学園については、現在調整中で12月15日を目処に終了させたいと思っている。・本日は7校分のヒアリングシートを提出する。・ヒアリングシートで低評価の改善をどのようにやっているかなどについては興味深い。明文化されている学校や仕組み自体がない学校なども見受けられる。・中期計画に関しては、ビジョンが明確でない学校もいくつか見受けられた。・中期計画と事業計画とが混同している学校なども見受けられた。・日本私立学校振興共済事業団からは良い資料を入手しているので、何らかの形で公開していきたい。長期ビジョン、中期目標、行動計画、情報共有などのプロセスについての情報を得てきている。対応しているのは主に大学。大学は中期計画が義務化されている。我々が目指した中期計画のガイドラインについては類似するものを想定している。（五十部、谷、山根）・高等教育評価機構では、職業教育マネジメントと中期計画の話をきた。PDCAの話があったが、CAの部分については今後力を入れている必要がある。うまく回っている学校は、学長にリーダーシップがあり、法人がそのバックアップしている体制をとっている学校はうまく回っている。（松本）・医療系とコンピュータ系の学校に行ってきた。学校経営に関しては熱心に行われていた。医療の学校では中期経営計画を策定するようになって理事長と話をする機会が増えた。コンピュータの学校では、しっかりとした取り組みをしている学校については、何か補助金的なことがほしいと言っていた。（鈴木）・中期計画を立てるときには、目的を明確にする必要があると考える。（谷）・学校の規模の違いによる体制の整備状況が異なると感じた。財務的な部分と教育管理部分をしっかり区分するべきだと感じた。（沖）・数値目標をしっかり立てているからしっかり評価ができているとは思わない。評価のタイミングを定期的にすると良いと感じた。（山根）・熊本では中期計画の作り方はマニュアルに乗っ取って作られていると感じた。中期の事業計画をしっかりと立てていた。実際の評価は残念ながら見せてもらえなかった。理事長が先導的な立場でしっかりと進めている学校であると感じた。（松田）・中期計画が複数年の計画を立てることの重要性が必要である。事実をしっかりと把握をしながら取りまとめることが必要と感じた。中期計画を通して学内のマインドセットを醸成することを目指したところはとても大事。大学では中期計画についてはすごくスパンが長い、教育マネジメントについては理解されていないと感じている。（稲永）・自己点検について、理事長が先導して取りまとめることは重要。会議などの目的を参加者に理解してもらってから実施することが重要。中期計画を立てることによって、組織、財務、課題などを炙り出すことが重要と感じた。中期計画の5年は長すぎということがあった。（林）〇事業報告書のまとめ方（五十部）・これまでの意見を受けて自己点検・評価表及び運用ガイドラインの取りまとめについて、皆様方からご意見を頂戴したい。ーーーーーーーーー質疑応答・中期計画を作成するためのガイドラインは、別立て。運用ガイドラインにはいくつかの項目に中期計画をを追加することでどうでしょうか（五十部）・今のある項目について、いくつか付加することでいかがでしょうか（沖）・1項目単独で中期計画を作ることは必要ないと感じる。（菊田）・私も同意見。（岡村）・私も同意見です。（林）・項目の配置（B、C）については、今後検討する。（五十部）・基準自体は変更することは馴染まない。必要性によって区分していけば良いと思う。（山根）・2月中旬までには全ての報告書が校了の状態でお願いしたい。（飯塚）〇スケジュール（五十部）・第5回委員会　　令和5年12月19日（火）14:00〜16:00・第6回委員会　　令和6年2月6日（火）14:00〜16:00 |
| 配布資料 | ・第4回事業推進委員会議題・令和5年度アンケート調査結果・職マネ・中計ヒアリング調査管理シート・職マネ・中計ヒアリング調査報告・自己点検・評価モデル利用手引き・ガントチャート |

以上